

混合交通を観察する
DOCUMENT
series—204
Eye

● WHY
自転車は、便利で手軽な交通手段として幅広い年齢層で利用されている。平成17年に発生した自転車に関わる事故は18万3653件と全交通事故の19・7%を占めている。自転車乗車中の交通事故による30日以内の死者は1105人を数える。

自転車事故の73・8%は交差点で発生しており、自転車同士の出会い頭事故や右左折時の事故が多くなっている。自転車でも夜間の無灯火は法令で5万円以下

日没後、自転車はライトを点灯させているか?



無灯火で二人乗りをする若者

- 観察場所/東京都江戸川区西小岩1丁目付近
- 観察日/1月18日 (木曜日)
- 天候/晴れ
- 観察時間/16:53~17:53
- 観察者/4名

● WATCHING
観察場所はJR総武線「小岩」駅付近の信号機のない交差点。駅方向から抜ける一方通行の道路と片側一車線の都道が交差している。駅周辺には商店街がある。

下の罰金が課せられる。
日没後に信号機のない交差点を通過する自転車のライト点灯状況を観察した。

**無灯火で並走する
高校生の自転車**

観察時間帯には買い物や通勤・通学などに自転車を利用している多くの人が、交差点を通行していた。年齢層は、幼児から65歳以上の高齢者まで幅広かった。この日の日入は16時53分。1時間に、この交差点を通過した自転車は合計531台(男性240台・女性291台)。このうち、無灯火は男性168台・女性190台、合わせて358台(67・4%)だった。観察したほとんどの自転車にはライトが装備されていたが、年齢に関わらず無灯火の自転車が多く見られた。観察した交差点は商店の照明がない場所。暗く、ライトを点灯している自転車は発見しにくい状態であった。

観察中には、全員無灯火で自転車を並走させる高校生と見られる6人グループや、母親と子ども両方が無灯火の自転車が見られた。自転車利用者の服装も夜間には目立たない黒っぽいものが多かった。観察場所は歩行者やクルマの通行がわりと多い場所であったため、無灯火でスピードを出す自転車をあわててよける歩行者も見られた。クルマが渋滞して交差点をふさいでしまった時には、右折しようとした高齢の自転車利用者がその間を通行しようとして、交差点内で立ち往生してしまう様子も観察された。また、ポケットに片手を入れたままの

●日没後、自転車のライト点灯状況を観察する
**日没後1時間に通過した自転車531台中
無灯火は358台(67・4%)**



携帯電話をかけたまま交差点を通過する自転車も目立った



子どもを乗せている無灯火の自転車



自転車はライトを点灯しているが、交差点を通過するクルマは無灯火

り、観察時間帯には買い物や通勤・通学などに自転車を利用している多くの人が、交差点を通行していた。年齢層は、幼児から65歳以上の高齢者まで幅広かった。この日の日入は16時53分。1時間に、この交差点を通過した自転車は合計531台(男性240台・女性291台)。このうち、無灯火は男性168台・女性190台、合わせて358台(67・4%)だった。観察したほとんどの自転車にはライトが装備されていたが、年齢に関わらず無灯火の自転車が多く見られた。観察した交差点は商店の照明がない場所。暗く、ライトを点灯している自転車は発見しにくい状態であった。

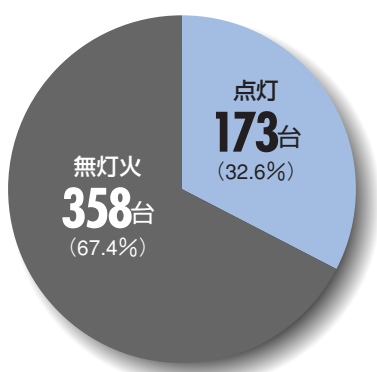
走行や、携帯電話を使用しながらの走行、くわえタバコの自転車利用者の姿も目立った。

● PROPOSE
自転車利用者は「見られる意識を持つことが重要」

今回の観察では、無灯火の自転車が67・4%で、全体の半数以上と多かった。無灯火で走行する自転車は、ドライバークラッシュ、歩行者から発見されにくい。安全確保のためには、「見る」だけでなく「見られる」ことも重要だ。たとえ自分から相手が見えていても、相手からは見えていない場合がある。ライトを点灯させることで、信号機のない交差点を通過する時にも、自分の存在を周囲に

早期に知らせることができる。自転車に乗車する際は、明るい色の服装や反射材を利用するなどの「見られる」工夫も必要だ。

●日没後の自転車のライト点灯状況 (531台中)



	男性 (240台)		女性 (291台)		小計
	点灯	無灯火	点灯	無灯火	
小学生以下	1	3	3	4	11
中学生・高校生	11	47	4	12	74
成人	53	109	84	166	412
高齢者	7	9	10	8	34
合計	72	168	101	190	531

※小学生以下 (12歳以下)、中学生・高校生(13~18歳)、成人 (19~64歳)、高齢者 (65歳以上) の判断は、観察者の見解による。

月刊SJ (セーフティジャパン)
2006年分縮刷版発行



日頃よりSJをご愛読いただき、ありがとうございます。本紙では交通安全教育に関わる様々な話題を取り上げ、充実した紙面づくりに努めております。

本紙2006年分の縮刷版を1部2000円にて販売いたします。ご希望の方は、住所、氏名、電話番号、必要部数を明記の上、下記のFAXまたはメールアドレスにお申し込みください。折り返し縮刷版を送付いたします。代金は、縮刷版到着後、同封してある郵便局の払込取扱票にて振込みをお願いいたします。

<お申し込み先>

(株)アストクリエイティブ 安全運転普及本部係
FAX:03-3405-1310

e-mail: sj-mail@ast-creative.co.jp

※ご不明な点は、TEL:03-3405-1191までお問い合わせください。